

月刊 アートコレクターズ

The Pleasure To See.
The Pleasure To Buy.

色彩の宇宙
実力派カラリスト
勢ぞろい

4

April
2024 NO.18

Art

Collectors'

色彩の宇宙

実力派カラリスト

勢ぞろい

寄稿
岡崎乾二郎
目から転がり落ちる色

谷川渥
絵画は色彩芸術か





["Call me by my name"] 2023年 油彩、木炭、キャンバス 200×560cm

Yeji Sei Lee

赤・緑・青をはじめ、作品の中で一色が画面上の色彩を支配するような作品を多岐にわたり描いてきた。これらの色は私自身を育んだ「土」を象徴しており、特に今作の画面上で横断するように用いられている朱色に近い赤は、市場での飲食業という決して容易ではない仕事に勤しむ、働く女性の逞しさと覇気を強調するために用いている。(Lee)

リー・いぇじせい 1995年東京都生まれ。2024年東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画研究室修了。THE LOOP GALLERY 掲載作品=363万円、100号(162.0×130.3cm)=92万円、小品=8万円～ 個展(10/12～11/10・Everyday Moonday Gallery [ソウル])

木村佳代子

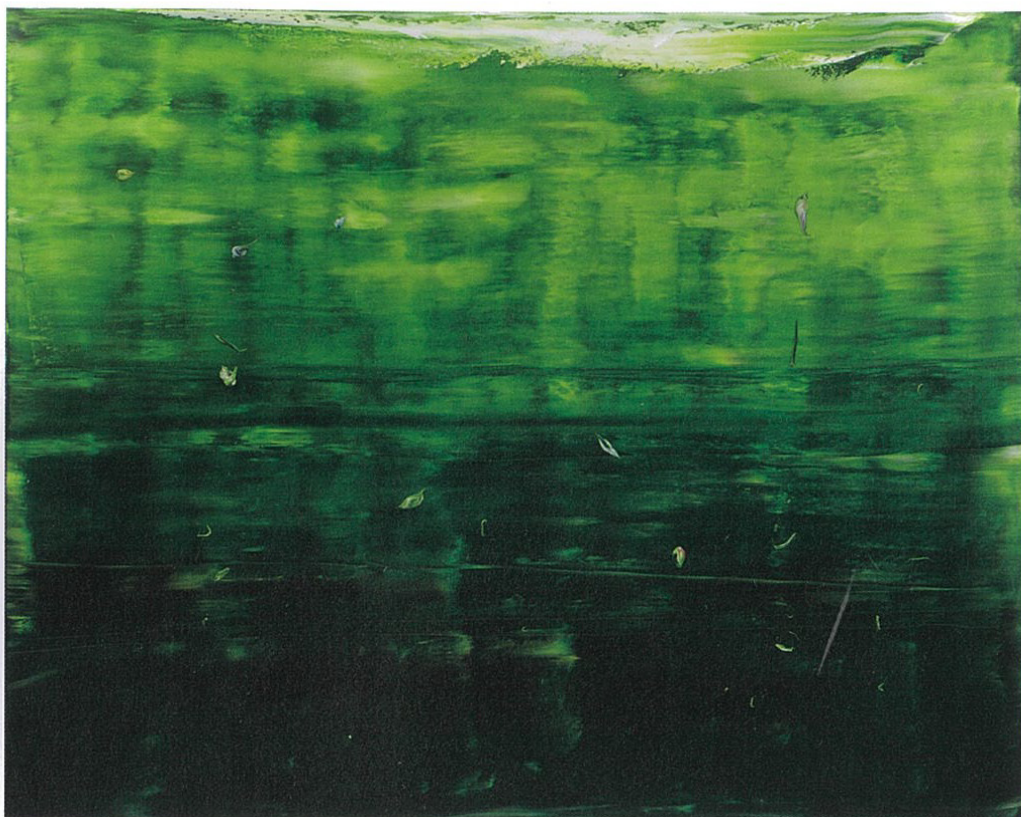
漆黒の宇宙に浮かぶ太陽、暗闇で灯すマッチの炎、虚無に飲み込まれる恐怖と虚無からうまれでる歓喜、生と死を行き来するような美しさと強さを表現してきました。

最近は白や青系を取り入れ、より透明に広がる世界の美しさと新たな静寂を探しています。(木村)

きむら・かよこ 1971年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。ギャラリーためなが 掲載作品=110万円 個展(11/9～12/8・ギャラリーためなが)



["Luminescence 2023-01"] 2023年 油彩、キャンバス 146×112cm



「森の中の風」2024年 油彩、キャンバス 131×162cm

吉川民仁

13年程前に偶然出会った森の中の池がこれらの緑色を用いて制作する動機となった。そこは水面に映った木々の緑と実在の緑とが一体となった静謐な世界で、いつか緑色をモチーフにして制作する時のために仕舞っておいた場所だ。数年経ち再度訪れ、改めて緑が作り出すこの空間こそが魅力的だったのだと気付かされた。(吉川)

よしかわ・たみひと 1965年千葉県生まれ。91年武蔵野美術大学大学院造形研究科油絵コース修士課程修了。現在武蔵野美術大学教授。■ギャラリーためなが ■掲載作品=187万円 ■桜満載—Merry Cherry Blossom—(3/20~4/14・ギャラリーためなが京都)、吉川民仁「景色の声音」展(3/30~4/21・ギャラリーためなが大阪)

平体文枝

わたしの作品の色彩の原点は、生まれ育った能登の風景にあります。家から歩いてすぐのところに港があり、そこは濃い緑の森に包まれた入江となっていました。湾を覗き込めば、どこまでも吸い込まれそうな青緑の海がありました。海の深さが増すにつれ濃くなる紺碧のグラデーションは記憶の風景として心に刻まれています。それらの風景が色彩表現の源となり作品制作の軸となっています。(平体)

ひらたい・ふみえ 石川県生まれ。1989年筑波大学芸術専門学群美術専攻卒業。2002~03年文化庁派遣芸術家在外研修員としてベルギーに滞在。ベルギー王立芸術アカデミー・ゲントに在籍。■ギャラリーサンカイビ、ギャラリーカメラ、松坂屋上野店 ■掲載作品=8.47万円 ■平体文枝 水彩画展(12/1~12/15・ギャラリーサンカイビ)



「伸びざかり」2023年 水彩 22×30cm